分担研究者
衞藤　隆　東京大学大学院
教育学研究科　教授
研究協力者
斉藤麗子　東京都文京区本郷保健所　参事
保健予防課長事務取扱
山中龍宏　緑園こどもクリニック　院長

保健所における事故防止指導に関する研究Ⅱ：小児事故予防教室参加者の意識調査

A．研究目的

家庭内での事故は、さまざまな状況で起こるが、より頻度の高い事故については、周知させねばならない。そのため、少ない時間にポイントをしぼるためには、なるべく日頃気がつかない事故について指摘する方が効果的であるので、それらを調べるために、講義の前後に意識調査を行う。

B．研究方法

乳幼児を持つ親を対象に講演会を企画実施し、実施前と後に意識調査を行った。対象者は乳幼児を持つ親とし、申し込み制で受け付けた。保育の準備の有る会場を用意し、集まりやすい体制を整えるよう工夫した。乳幼児健診時に講演会のチラシを配布すると共に、開催1週前に区の広報で周知した。会場は保健所の講堂を使用し、講師としては事故防止指導経験のある小児科医師に依頼した。講演会の内容は概略以下の1）～3）の通りであった。

1）講義

・スライドを使った乳幼児の事故についての統計や実例を紹介

・事故予防の注意

・応急手当の方法

2）実習

・蘇生訓練用の人形を使用し、人工呼吸や心マッサージ

3）テキスト配布

C．研究結果

講義開始前に以下のような質問紙を配布し、無記名で回答を記入したもらい、講義前に回収した。

＜講義前調査＞

子どもの年齢（　歳　ヵ月 男・女）

講義の参考にいたしますので、以下の問いに○×をつけて下さい。開始前に集めさせていただきます。

（　）1　子どもは家の中で溺れることが多い。

（　）2　たばこやボタン電池などは食べ物でないので口に入れることは少ない。

（　）3　500 円玉ぐらいの大きさの物は赤ちゃんの口の中に入らない。

（　）4　溺れたり食べ物をつまらせたりして、呼吸をしていない時はすぐに救急車を呼び、そっと寝かせる。

（　）5　仰向けに寝かせ、母乳で育て、子どもの周囲でたばこを吸わないことで、SIDS(乳幼児突然死症候群)を防ぐ可能性が高くなる。

（　）6　お子さんを膝の上で抱っこして自動車に乗る場合、時速 40km 程度なら、急に止まっても支えることが出来る。

（　）7　チャイルドシートは歩き始めた子どもをじっとさせるために使う。

（　）8　暖房をつける部屋は乾燥しやすいので、ストーブ等暖房の上に水の入ったヤカンやナベを置き蒸気をたてる方が良い。

事前調査の結果は以下の通りであった。

①「乳幼児は家の中でも溺れることがある」を理解していた人は多く、83.3％であった。

②たばこやボタン電池などを口に入れることがある事を理解していたのは、86.7％であった。

③500 円玉の大きさの物は口の中に入れると危険である事を理解していたのは、83.3％であった。

④「溺れたり食べ物をつまらせたりして呼吸をしていない時はすぐに救急車を呼び、そっと寝かせる」を正解であるとしたのは 36.7％であった。

⑤SIDS（乳幼児突然死症候群）の予防として「(1) 仰向けに寝かす、(2)母乳で育て、(3)子どもの周囲でたばこを吸わないこと」を知らない人が 16%いた。

⑥時速 40km の自動車で、抱っこで子どもを支えていられると間違って考えている人はほとんどいなかった。

⑦チャイルドシートは安全のために使うという認識は全員にあった。

⑧暖房の上に水の入ったヤカンやナベを置くという熱傷の危険の場面を是定する考えが 16.7％あり、今後の注意が必要である。

講義を終了した後に同じ対象者に対し、再度以下のような質問紙調査を実施した。

＜講義後調査＞

以下の問いに（イ）、（ロ）、（ハ）、（ニ）から選んで下さい。お帰りの際にお渡し下さい。

1．子どもはお風呂の残り湯で溺れることを

イ．初めて知った　ロ．すでに知っていた

2．乳児の誤飲の原因の第一位がたばこであることを

イ．初めて知った　ロ．すでに知っていた

3．32mm 以下の大きさの物は口に入れる危険がある事を

イ．初めて知った　ロ．すでに知っていた

4、SIDS の原因として、うつぶせねや乳幼児の周囲での喫煙などは影響することを

イ．初めて知った　ロ．すでに知ってた

5．蘇生や人工呼吸のやり方は

イ．初めて学習した　ロ．すでに知っていた

6．いざという時に人工呼吸が

イ．出来る　ロ、自信がない

7．時速 40km でもチャイルドシートを使わないと危険なことを

イ．初めて知った　ロ．すでに知っていた

8．チャイルドシートを使い始めるのは

（イ）産院を退院する時、（ロ）首が座った時、（ハ）お座りが出来るようになった時、（ニ）歩くようになった時

9．家の中にはいろいろ危険なものがあることを

イ．初めて知った　ロ．すでに知っていた

10．今日の話で納得出来たこと（自由記述）

11．今日の話で納得出来なかったこと（自由記

述）

12. 帰って早速やってみようと思った事（自由記述）

事後調査結果は以下の通りであった。

①子どもはお風呂の残り湯で溺れることを知っている人は多かった。

②誤食の原因の第1位がたばこである事を知っていたのは、2/3 の人であった。

③32mm 以下の大きさの物は口に入れる危険がある事をすでに知っている人が多かった。

④SIDS に影響することがらをすでに知っている人が多かった。

⑤蘇生や人工呼吸の方法を初めて知った人が75.9％もいた。

⑥いざという時に人工呼吸が出来る人より自信がない人の方が 66.6％と多かった。

⑦時速 40km でもチャイルドシートを使わないと危険である事を知っている人は半数であった。

⑧チャイルドシートの使い始めは講義後ではほとんどの人が産院を退院する時からと正しく答えている。

D．考察

当日の講義で納得出来たことは、事故防止の重要性が一番多く、次にお風呂の事故についてと、人工呼吸、心マッサージについて納得出来たの順であった。また、事故は親が気をつけて見ていても起こりうる事を納得した。

これからやってみようと思う第1はお風呂の水を抜くであり、第2にドアの指はさみの防止、風呂のドアに入れない工夫をする、誤食しそうな小さな物のをチェックするが続く。

E．結論

事故防止の講義では、事故についての具体的な実例を紹介する事は重要である。子どもの周囲に危険が多い事を知ってはいても、具体的な実際的な事についてはイメージされない事が多いようなので、知識としても実例を多く示す方が効果的である。人工呼吸や心マッサージについても一度だけでなくいろいろな機会をとらえ、さらには自習まで出来るような場の設定が必要である。そのためには、事故防止センターのような場が保健所や小児科医療機関、公共機関、デパートなどいろいろな場に併設されることがイメージ作りに望ましい。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

A．研究目的

家庭内での事故は、さまざまな状況で起こるが、より頻度の高い事故については、周知させねばならない。そのため、少ない時間にポイントをしぼるためには、なるべく日頃気がつかない事故について指摘するほうが効果的であるので、それらを調べるために、講義の前後に意識調査を行う。